

鵜原の大名行列の縁起について

千葉県勝浦市鵜原、八坂神社の祭りは昔、日数が長く旧暦の6月6日から15日までの10日間も行われていた。この行列祭りであるが、メインは本祭りに行われる神輿の「お浜降り」とそれに供奉し、神輿の先頭をいく「大名行列」である。

この大名行列の起源については次のように言われている。

永正（1504~1521）2年に尾張、津島神社より分霊を勧請し八坂神社が建立されたとき、津島神社に尾張公の代参が、10万石の格式をもつ大名行列で参向していったと始められたものという。また、行列の用具は大多喜城主「本多出雲守忠朝」から拝領したものと伝えられている。

慶長（1596~1615）6年、上総大多喜城主「本多忠朝」が、重い病にかかったところ鵜原より奥女中として奉公していた「石川さく」の言をとりいれ当社に祈願したところ、たちまち平癒全快した。忠朝は、おおいに喜び早速御礼のため当神社へ参詣し、その際行列が用いた武具一式と当社へ奉納した。

旧6月7日の例祭には、神輿渡御と共に大名行列が供奉し400年来の伝統をもつもので、昭和43年に千葉県の民族資料として指定された。現在は、観光をかね7月の第4土曜日に行っている。

※「本多出雲守忠朝」・・・徳川家康の四天王といわれた本多忠勝の次男



- 昭和48年10月 千葉国体（勝浦会場）参加
- 平成16年9月26日 大多喜城まつり参加
- 平成20年9月14日 勝浦合同祭参加
- 平成29年6月11日 県民の日イベント（幕張メッセ）参加
- 令和6年6月16日 千葉県誕生150周年記念事業フィナーレイベント 参加

<鵜原大名行列保存会>